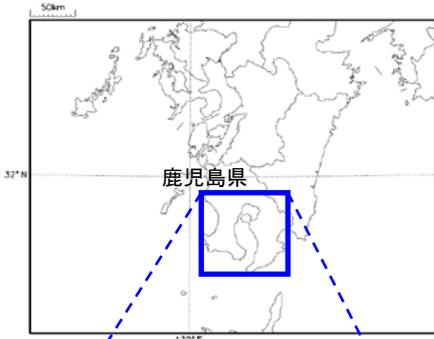
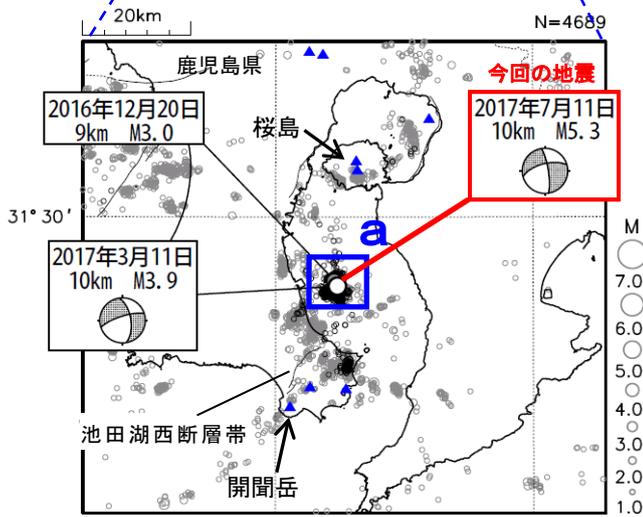


7月11日 鹿児島湾の地震



震央分布図

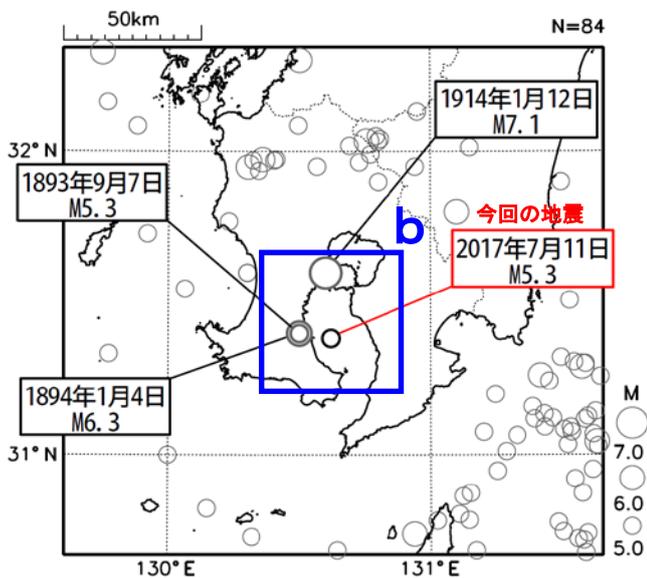
(2000年10月1日～2017年8月15日、
深さ0～20km、 $M \geq 1.0$)
2017年7月以降の地震を濃く表示



図中の細線は地震調査研究推進本部の
長期評価による活断層を示す

震央分布図

(1885年1月1日～2017年8月15日、
深さ0～100km、 $M \geq 5.0$)
1885年～1922年は宇津力カタログを使用
2017年7月以降の地震を濃く表示



2017年7月11日11時56分に鹿児島湾の深さ10kmでM5.3の地震（最大震度5強）が発生した。この地震は地殻内で発生した。発震機構は西北西－東南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型であった。この地震の発生以降、震源付近（領域a）で地震活動が活発となり、最大震度1以上を観測した地震が8月15日までに35回（最大震度3：2回、最大震度2：3回、最大震度1：30回）発生した。この地震により負傷者1人などの被害が生じた（総務省消防庁による）。

2000年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域a）では2016年12月頃から地震活動がやや活発となっており、2017年3月11日にはM3.9の地震（最大震度3）が発生した。

1885年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域b）では、1893年9月7日にM5.3の地震が発生し、知覧（現在の南九州市知覧町付近）で土蔵破損10、居宅半倒1、倒家2などの被害が生じた。また、1894年1月4日にM6.3の地震が発生し、山崩れ29、道路決壊11などの被害が生じた。1914年1月12日にはM7.1の地震が発生し、鹿児島市内で死者13人、負傷者96人、住家全壊39棟などの被害が生じた（被害はいずれも「日本被害地震総覧」による）。

領域a内のM-T図及び回数積算図

